



クローズアップ CLOSE UP

耳から知る新しい発見

アーツ前橋で3月21日(日)まで企画展「聴く - 共鳴する世界」を開催中です。聴くという行為から新たな気付きを与える作品を展示。来場者は自身のイヤホンやヘッドホンを持参して作品を楽しんでいました。同館では「場所の記憶 想起する力」展も同時開催しています。



前橋のまちなかへGO

前橋中心商店街ツナガリズム祭りを12月13日に中央イベント広場をメイン会場に開催。エフエム群馬の公開生放送のほか、各商店街ではスタンプラリーや抽選会、歳末感謝祭などを実施。イベントは、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら開催しました。



SL運行クレインホーム戦

12月5日、ヤマト市民体育館前橋で群馬クレインサンダーズのホーム戦を開催。ふるさと納税の寄付金で開催するマエバシプライドマッチとして実施し、青森ワッツに100対75で勝利を収めました。また、会場ではミニSL列車を運行。試合とともに来場者を楽しませました。

CITY WATCHING

宮城地区を元気にするため、ふれあい交流部会長として活動する大崎さん。コロナ禍で地域の祭りなどのイベントが中止となる中、広報委員長の上野さんたちと「つながろう！みやぎプロジェクト」を立ち上げ、宮城オリジナルグッズの制作・販売を始めた。

「大勢の人が集まらなくてもできることはないかと考え、Tシャツとエコバッグ、手ぬぐいを制作しました」と大崎さん。Tシャツとエコバッグのデザインには、交流会で平成24年に作成した宮城地区の7町をイメージしたゆるキャラを取り入れた。

「手ぬぐいのデザインは、

宮城地区出身で日本画家として活躍している須藤和之さんにお願いしました」と上野さん。宮城の淡いタンポポがデザインされた手ぬぐいは、他の2つのグッズと共に地元で人気となっている。

「オリジナルグッズは期間限定で宮城地区内の3店舗で販売していますが、追加制作するほど好評です。こんな時だからこそ、グッズが地域のみんなの心をつなげる一助になればうれしいです」と二人は語る。

コロナによる制約が続く中、地元の元気のために活動する二人。これからも地域の魅力と元気を発信していく。

いきいき
まえばし人
みやぎ地域づくり交流会
上野実さん 63歳(右)
苗ヶ島町
大崎博之さん 50歳(左)
柏倉町



探訪！ まえばしの風景

Vol.5 芸術文化れんが蔵

岡都市計画課
☎ 027-898-6974

前橋の景色を象徴する建物や樹木など、本市の誇るべき景観資産を登録する「景観資産登録制度」。このコーナーでは、登録資産の中から、身近な公共建築物の特徴や見どころを紹介します。今回は芸術文化れんが蔵です。

芸術文化れんが蔵は、元は大竹酒造が昭和8年の創業に当たり取得した蔵です。昭和47年まで日本酒の醸造をしていました。建蔵年は定かではありませんが、大正後期と考えられています。

れんが蔵の外壁は、赤れんがイギリス積み。立体感のある装飾など、全体的に凝った意匠が見られます。内部は2

階部分の床板が撤去され、天井は当時からの大引、根太であった柱があらわになっています。

平成25年に本市が取得し、平成28年には国の登録有形文化財となりました。現存する数少ないれんが造りの酒造蔵で、現在も展覧会や公演などの芸術文化活動の一拠点として活用されています。



文化活動の場として多くの市民に利用されている。



所在地 三河町一丁目16番27